



令和4年第1回定例夕張市議会

令和4年度 教育行政執行方針

令和4年3月9日



令和4年度 教育行政執行方針

1	はじめに	1
2	学校教育の推進	2
	(1) 確かな学力を身に付ける教育の推進	2
	(2) 豊かな人間性を身に付ける教育の推進	4
	(3) 健やかな体を育む教育の推進	5
	(4) 小中高校魅力化の推進	5
	(5) 特別支援教育の充実	7
	(6) 信頼される学校づくりと家庭・地域との連携	7
	(7) 教職員の働きやすい環境の構築	8
3	社会教育の推進	8
	(1) 人と人、地域と地域をつなぐ生涯学習の振興	8
	(2) 体育・スポーツの振興	9
	(3) 第7次社会教育中期計画の策定について	10
	(4) 石炭博物館模擬坑道について	10
4	むすびに	11

1 はじめに

令和4年第1回定例市議会の開会にあたり、夕張市教育委員会の教育行政執行に関する主要な方針について申し上げます。

予測困難で変化の激しい「Society5.0 時代」といわれるこれからの社会で、子供たちには自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう育んでいくことが求められています。

また、ここ2年の間は、国や道における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に従い、その時々レベルに応じた感染防止、拡大防止策を徹底しながら、子供たちに感染させることなく、学びを止めることなく、社会教育活動にあっても様々な工夫や検討を行いながら、各種事業を実施してきました。

その収束は依然として不確かではありますが、これからの夕張にとって、地域の宝であり大切な財産である未来を担う子どもたちの育成は、本市の将来に向けた大きな使命あり、そのための「教育への投資」は極めて重要であると考えます

令和4年度における教育行政の推進は、こうした現状を踏まえ、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、課題である子供たちの「確かな学力の向上と豊かな心身の育成」及び拠点複合施設「りすた」の賑わいの創出を重点に、従来の取組を継続、発展させ、学校教育活動並びに社会教育事業等の充実を着実に推進していく所存であります。

2 学校教育の推進

(1) 確かな学力を身に付ける教育の推進

本市の児童生徒の学力は、一定の伸びはあるものの、依然として全国・全道平均に達していないことから、「自ら学び、自ら考え、判断して行動する力」の育成に努め、基礎的・基本的な「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」、「学ぶ意欲」など確かな学力を身に付ける教育を力強く進めなければなりません。

そのため、「ゆうばりっこ、学び育成プラン」を改訂し、新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」や、昨年、中央教育審議会が答申した「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指す教育活動を、次の三点の

取組を重点に推進してまいります。

1点目は、「学ぶ意欲の向上」についてです。

基礎学力の定着とその向上のため、少人数習熟度別授業、TTなど個に応じた指導をはじめとして、ICTを活用した授業の展開、学び直しの時間の工夫、家庭学習の充実等に取り組んでまいります。特にGIGAスクール構想により、児童生徒一人に1台のタブレット端末が整備され、授業等における学習ツールとしての有効活用や家庭学習での活用、更にはデジタル教科書の活用検証事業に継続して参加するなど、ICTの活用促進を図り、子どもたちの思考力、判断力、表現力や情報活用能力の育成を通し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指します。また、オンラインによる授業配信にも取り組み、学びを止めることなく、児童生徒の学ぶ意欲の向上を促進します。

2点目は、「小中協働の強化」です。

「小中連携学力向上プロジェクト委員会（通称：ユープロ）」の活動の充実を通して、合同研修や乗り入れ授業、小学6年生児童の中学校校舎での学習活動の実施等小中の交流事業を実践します。さらに、9年間を通じた学力の経年変化の分析と改善策の検討を行うなど、

小・中協働を加速化させ、義務教育9年間を見通した系統的、効果的な学力向上策を追求してまいります。

また、将来的な義務教育学校の設置も視野に、本市における小中一貫教育のあり方の検討を始めます。

3点目は、「教師の授業力の向上」です。

オンライン研修会等への積極受講を促すとともに、夕張高校が開催する研修会への参加や空知教育局指導主事等外部講師を招聘した研修活動に取り組み、教師の授業力の向上に努めてまいります。

これらを通し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現や学習ツールとしてのICT機器を有効活用した授業改善のためのスキルアップを図ります。

(2) 豊かな人間性を身に付ける教育の推進

本市の子供たちは、「純粹で素直である」との評価があります。このことを大切にしながら「明るく、元気で礼儀正しく、心豊かでやさしい態度」と「社会に適応する協調性」を併せ持った「ゆうばりっこ」の育成に取り組んでまいります。

このため、いじめや不登校を未然に防ぐとともに、

規範意識を高め、違いを認め合う各種教育活動の充実、「Q-Uテスト」を活かした望ましい学級集団づくり、「ピア・サポート」を取り入れた教育活動等の実践による児童生徒同士の絆づくりに取り組みます。これらを通し、他者への思いやりの気持ちや多様性の尊重、豊かな感性、社会的協調性、自己肯定感などを育み、子供たちに豊かな人間性を身に付けさせます。

(3) 健やかな体を育む教育の推進

豊かな人間性に加えて重要なのは「健康でたくましい体」を持った子供たちの育成であります。

直近の体力・運動能力調査の結果から、本市の児童生徒は複数の種目で全国・全道平均を上回る結果を得ております。今後も、課題である持久力アップをはじめ、体育の授業を中心に学校全体で取り組む体力・運動能力の向上策を推進していくとともに、自己の健康・安全への実践意欲の向上を目指し、新型コロナウイルス感染症予防のための環境整備と感染防止への指導等を徹底して行ってまいります。

(4) 小中高校魅力化の推進

市長部局と連携を図りながら、夕張高校の進学実績

の向上や部活動の活性化を図り、夕張高校の魅力化を推進し、夕張高校への進学率を高めようとして取り組んできました。しかし、市外を志望する傾向が毎年一定程度見られ、加えて急速な少子化により、今後も夕張高校への入学者確保は大きな課題です。

一方、健全な子どもたちの育成は、地域経済の活性化には不可欠なものです。このため、教育の魅力化は高校にとどまるものでは決してありません。義務教育段階から高校へとつなぐ一連の支援を継続していくことが重要です。

本市では、過去4年間、小中高一貫のマンツーマンオンライン英会話授業を実施し、英会話並びに英語力の向上と国際理解教育の充実を図っております。今後もこの取組を充実発展させることで、グローバル人材の育成と特色ある英語教育の実践により、夕張高校卒業後の進路選択の拡充を目指すとともに、夕張の子供たちの自信と誇りを育みます。

昨年度開始した「ふるさとキャリア教育」は、夕張の特性や良さを見直すとともに、地域の人材や教育資源を生かした学習に取り組む、街づくりや地域の将来像を考えたり、情報活用能力や課題解決能力を培った

りすることなどを目的に実践しています。今年度は「キャリア・パスポート」を活用した指導の充実を図り、学年間、校種間で引き継いでいくとともに、12年間を通したカリキュラムの作成に繋げていく考えです。

(5) 特別支援教育の充実

近年、特別支援学級の在籍者や通級指導を受ける児童生徒が増加しています。

特別支援教育は、一人ひとりの教育ニーズに応じた指導や支援が必要なことや、地域において長期的な視点から切れ目のない支援を行わなければならないことを踏まえ、対象となる幼児児童生徒等に対しまして、「ゆうばりっこ未来ファイル」の作成と活用を通して特別支援教育推進協議会など関係機関との連携を図り、充実した支援を行ってまいります。

(6) 信頼される学校づくりと家庭、地域との連携

地域に開かれ信頼される学校づくりのためには、学校と家庭・地域が教育目標や課題を共有し、共に協働して教育活動に取り組んでいくことが大切です。

夕張市学校運営協議会は「家庭学習強調週間」や「夕張クリーンデー」など特色ある取組が定着し、地域と

学校をつなぐ大きな役割を有しております。今年度も学校を核に、学校運営協議会の更なる活動充実を図るとともに、地域学校協働本部事業との連携や地域の教育力を活かした体験型、課題探究型の学習活動等にも継続して取り組んでまいります。

「信頼される学校」づくり、「地域とともにある学校」づくりに向け、校長のリーダーシップのもと、学校と家庭・地域が揺るぎない信頼関係を構築し、行政との連携も強め各種取組を推進してまいります。

(7) 教職員の働きやすい環境の構築

教職員の時間外勤務を削減し、教材研究や子供たちと向き合う時間を確保するなど教師本来の職務に専念できる環境の構築は待ったなしの状況です。そのため、本市においても「校務支援システム」を導入し、教職員の勤務時間の管理を行うことで時間外勤務の縮減を図るなど、働き方改革を推進しております。令和4年度も、この取組を前進させ、教職員の職務環境の向上を図ります。

3 社会教育の推進

(1) 人と人、地域と地域をつなぐ生涯学習の振興

子供から大人まですべての市民が学べる生涯学習の実践と潤いのある生活実現のための社会教育事業の推進は極めて重要です。また、郷土の文化や芸能を保護し、歴史を重んじ愛する市民の育成が「再生夕張」には不可欠です。

このため、生涯学習活動の企画運営、文化・芸術作品の展示鑑賞の機会提供などに取り組んでいく必要があります。オープン3年目となる拠点複合施設「りすた」を、このような活動の拠点として令和4年度も「賑わいの創出」を目指します。

具体的には、「りすた Challenge 協働事業」と「未来を創る市民学習講座事業」を昨年度の成果と反省点等を踏まえ今年度も企画し、市民の学びの場、集いの場として積極的に提供してまいります。また、コミュニティスクール等と連携した「郷土愛教育事業」の実施、「ゆうばりっ子ひろば」や「りすた図書館」を活用した事業の展開など、子どもから大人まで幅広く利用していただける環境づくりの方策について追及してまいります。

(2) 体育・スポーツ活動の振興

市民の皆様の体育・スポーツ活動に親しみ、健康の

保持増進や生きがいを実感する機会の充実を求める声に応えるためには、地域に密着したスポーツの推進とそのためスポーツ施設の整備・充実に取り組み、施設利用の促進を図っていくことが必要です。そのため、総合型地域スポーツクラブに対してのサポートをこれまで同様に行っていくとともに、スポーツ関連施設の維持や管理に必要な予算の確保と執行について努めてまいります。

(3) 第7次社会教育中期計画の策定について

令和4年度から令和8年度に至る5年間の第7次社会教育中期計画を策定いたしました。今後の本市における社会教育活動につきましては、これに基づきなお一層推進してまいります。

(4) 石炭博物館模擬坑道について

石炭博物館模擬坑道に係る、現在の作業状況及び今後の対応について申し上げます。

2019年4月に発生した坑道火災以降、その消火や坑道内の排水作業、有識者による現地視察及び意見交換による坑道復旧プランの検討など様々な取組を行ってきました。また、観覧坑道であるが故にこれま

で以上の安全対策を講じる必要があり、坑道内炭層の状況を詳細に把握するためのボーリング調査等を踏まえ、坑道内の復旧をどのように図っていくかなど、課題解決と早期再開にむけて有識者による助言を得ながら着実に作業を進めてまいりました。

その上で、今年度は再開へ向けた坑道内復旧工事を開始し、令和5年度内の工事完了、遅くとも令和6年度当初の模擬坑道観覧の再開を目指していく所存です。しかしながら、現在のコロナ禍の中、必要な建設資材の調達やその運搬、作業員の確保等、計画通りに工事が進まないことも想定されます。

市民のみなさまには、深いご理解を頂戴いたしたく、この場をお借りいたしましてお願い申し上げます。

5 むすびに

以上、継続的な課題の克服や重点施策に取り組んでいく基本的な考え方に沿って、令和4年度の教育行政執行方針を述べさせていただきました。

コロナ禍は、私たちの生活様式を変え、教育環境や社会教育活動等に大きな影響を与えています。新型コロナウイルス感染症による、日々の暮らしへの影響はまだしばらく続くものと推察いたします。

また、小・中学校校舎やスポーツを主とする関連施設の整備に関しては老朽化による不具合等が著しくなってきたおり、これらの課題は、予算編成時において解決が図られるようなものではございません。財政再生計画にしっかりと反映し、計画的に改善が図られるように、粘り強く国や北海道と協議を重ねていかなければならない事案であると考えます。

このような厳しい環境下にある本市ではありますが、教育を一步でも、二歩でも着実に発展させていくことを私の使命としながら、教育行政の舵取りをしっかりと担ってまいります。

市民の皆様、そして市議会の皆様には、引き続きご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げ、私の教育行政の執行方針といたします。